



下 和 泉 小 だ よ り

横浜市立下和泉小学校

保健室から見えるもの

養護教諭 小袋麻美子

今年の夏は、例年よりも比較的過ごしやすく、気が付けばいつの間にか金木犀の香りが漂い始め、彼岸花や秋桜が道端を彩る季節になりました。朝夕の涼しい風に秋の訪れを感じます。もうすぐ前期が終わり、後期が始まります。節目であるこの時期、この半年間で見られた子どもたちの姿を少し思い起こしてみました。

下和泉小の保健室は校庭に面しており、窓を開けると風とともに子どもたちの声が保健室の中に届きます。窓から見える校庭には、元気に遊ぶ子どもたちの姿や体育で体を動かす姿、また理科や生活科の授業をしていたり、せせらぎの丘では池の大掃除や観察をしていたり、芝生で日向ぼっこをしている子どもたちなど、日々、いろいろな子どもたちの姿が見られます。

保健室に訪れる子どもたちの多くは、けがや病気による来室です。「けが」は、学校の健康課題として、今年度の学校保健委員会のテーマでもあります。子どもたちは、けがでの来室の際、「下小校内安全マップ(校舎内配置図)」のけがをした場所に学年色のシールを貼ります。これは、けがを減らす目的からけがの多い場所を注意できるように、保健委員会の児童を中心に昨年からはじめた取組です。保健委員会では、下小けが調べの結果を全校に伝えたり、12月の保健集会に向けて準備を進めたりしています。また来室した児童に優しく寄り添う保健委員は不安な低学年にとって、頼もしい存在となっています。



一方、季節の変わり目や長期休み明けなどは、体調不良や日々の疲れによる来室や、心が元気でないときに来室することもあります。学校生活は、決して楽しいことばかりではなく、辛いときや苦しいとき、元気でいられないときもあるもの・・・そんな中、私が子どもたちと関われる場所は「保健室」であり、関われる時間はほんの数分、数十分、数時間です。そんな限られた時間、何気ない会話の中で、「頑張った自分を褒めてあげる日がある」と言っていた子がいました。その子は日々の生活の中で、頑張ったことを自ら認めて、「がんばったね」と自分を褒めてあげているというのです。見えないところで頑張っている姿を想像し自分のことを認めてあげられる姿とその一言に心動かされた瞬間でした。こうしてひたむきに頑張る子どもたちの姿を少しでも多く見つけて言葉にすること、改めて大切なことだと考えさせられました。



時には、悩んだり、失敗したり、褒められたり、笑い合ったりする日々の積み重ねの中で、ゆっくりと子どもたちの心が育まれていくものだと思います。今日も保健室から見える子どもたちの姿を見つめ、見守っていこうと思います。

10月は遠足や校外学習、宿泊行事などの行事が続きます。元気に秋を過ごせるよう、ご家庭でもご支援とご協力をお願いいたします。